

S.グリースマン著『アグロエコロジー』日本語訳出版記念

オンライン公開セミナー「今なぜ、アグロエコロジーが必要なのか？」

日時 2023年12月12日(火) 16:00~17:15

会場 (一社)農山漁村文化協会7階(埼玉県戸田市)よりZOOMウェビナー配信

参加費 無料

申し込み 事前登録制(締め切り12月11日) QRコードからは⇒
https://zoom.us/webinar/register/WN_jtzlQvm_SaKkB8wU0aYNRg



農業の近代化による工業的農業は、環境への負荷が大きく、持続可能性に欠けることが明らかになりつつある。21世紀のあるべき農業の姿として、世界銀行や国連機関、EUなどでは、小規模・家族農業によるアグロエコロジーを推奨している。欧米で持続可能な農業に向けて政策転換がなされたのに続き、日本でも「みどりの食料システム戦略」が策定され「食料・農業・農村基本法」の見直しが行なわれている。しかし、これらの議論は農業生産技術を中心としたものが多く、フードシステム全体の持続性について言及することが少ない。

このたび農文協から出版した『アグロエコロジー 持続可能なフードシステムの生態学』は、持続可能なフードシステムへの移行に際し、生産だけでなく加工・流通・消費までの流れを総合的に考えることがなぜ必要なのかが、科学・実践・社会運動の側面から深めている。

本セミナーでは、アグロエコロジーとは何か、なぜ今、必要なのか、著者の声とともに、研究・実践者の具体的な事例を通して考えたい。

★『アグロエコロジー』書籍情報はこちら⇒



[プログラム]

総合司会 小谷あゆみ(農ジャーナリスト/アナウンサー)

1. 著者からのメッセージ

スティーヴン・グリースマン(カリフォルニア大学サンタクルーズ校 名誉教授)

2. 監訳者からの報告 アグロエコロジーとは何か

村本穰司(カリフォルニア大学サンタクルーズ校・有機農業スペシャリスト)

3. 今なぜ、持続可能なフードシステムが必要なのか

[報告1] アグロエコロジーをベースとした教育、社会実践

浅岡みどり(立教大学大学院博士課程)

[報告2] Condor's Hope(グリースマンのブドウ園)を訪問して

——日本のワイン用ブドウ栽培との相違点と共通点

澤登早苗(恵泉女学園大学人間社会学部教授)

[報告3] 家庭菜園をアグロエコロジーの視点で考えてみると？

小松崎将一(茨城大学農学部附属国際農学センター教授)

[報告4] 日本におけるアグロエコロジーの展望と期待 <オンライン>

嶺田拓也(農研機構 植物防疫研究部門)

主催: アグロエコロジー翻訳グループ 協力: (一社)農山漁村文化協会